

当院における持参薬管理

東京都 医療法人社団永生会永生病院
富岡 香(薬剤師) 佐竹 ケイ子

【目的】当院ではH16年10月より、入院患者様の持参薬管理業務を実施して来ました。今回、薬剤師による持参薬管理のメリット・デメリットについて関連部署にアンケートをとりましたので、その結果を報告します。

【方法】H18年6月に無記名でアンケートを実施しました。対象は、医師と薬剤師全員、看護師は各病棟5名ずつです。

【結果】回収率は医師68%、薬剤師100%、看護師88%でした。医師からは概ね好評で、当院薬への変更時に持参薬鑑別書が役に立っている、これからも続けてほしいとの意見が大半でした。薬剤師からは、持参薬管理に

より入院時から服用薬が把握でき適切な管理が出来るが、業務自体はかなり負担になっているとの意見でした。看護師からは、薬剤科での持参薬管理が誤薬の防止や業務量の軽減に役立っているとの意見でした。

【考察】現在行っている、持参薬鑑別書の作成、当院薬との関連情報提供、1包化、与薬車へのセット等は、医師・看護師・薬剤師にとって大変有用な業務であると同時に、誤薬防止効果により患者様に安全な薬物治療の提供をも可能にしています。持参薬の管理に薬剤師が関わることにより、持参薬による副作用の早期発見、適切な投与量への変更など、更に適切な薬物治療の提供にも役立っています。今後とも、この業務を効率的に継続し薬剤師としての職能を発揮していかなければならないと考えています。